

東建パブリニュース

平成29年8月24日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

平成29年8月23日 中部経済新聞 P.2

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

聞きたい

刀剣博物館建設への思いは?

東建「一ポレーション社長 左右田 稔氏

(えうだみのる)

東建コーポレーションは、2020年6月の完成をめざし、名古屋市中区栄に刀剣美術博物館「名古屋刀剣ワールド」を建設する。6階建てで、展示スペースは約1040平方㍍、延べ床面積は約2200平方㍍の予定で、當時約200振りの日本刀を展示する。刀を紹介する拠点としては国内最大。建設に込める思いやねらいなどを、左右田社長兼会長に聞いた。

(聞き手・竹田ゆりこ)

—展示する刀は、左右田社長が約40年前から集めてきた。日本刀に興味を持つたきっかけは、「さかのぼつて考えてみると、幼いころ、家にあった一枚の写真がきっかけ。戦死したおじが、警察官の制服を着て、サーベルを持った姿が写っていた。その姿が、なんどなく頭の中にある

—最初に購入したのは20代後半。それから日本刀を収集するようになつたときのかけは。「名古屋刀剣ワールド」

—「名古屋刀剣ワールド」

「見せ方を工夫し、これまでにないような博物館づくりにチャレンジしたい」と話す左右田社長兼会長

これまでにない博物館に

「見せ方を工夫し、これまでにないような博物館づくりにチャレンジしたい」と話す左右田社長兼会長

「設で直接見てもらう手法と、ウェブサイト上で楽しんでもらう手法を組み合わせて展開していく。サイトは英語版も作成し、世界に発信する。東京で年に1回開催される刀剣市には、外国人の来場も多い。名古屋刀剣ワールドは、東京オリンピックが始まる数ヶ月前の6月オープンをめざして、徳川家の妖刀『村正』(むらまさ)』や『闘の孫

いる。さらに展示に電子情報を取り組み込ませるなど、見せ方に工夫を凝らしていく。日本刀で、常時200振りを展示するが、収蔵庫にも約800振り入るので、今までにないような博物館づくりにチャレンジしたい。刀をただ1列に並べるのではなく、2列、3列と立体的に並べ、棚を可動させることも検討して

—どうな采場者を見込んでいるのか。

「日本刀に詳しいマニア層をねらっていきたい。施設で直接見てもらう手法と、ウェブサイト上で楽しんでもらう手法を組み合わせて展開していく。サイトは英語版も作成し、世界に発信する。東京で年に1回開催される刀剣市には、外国人の来場も多い。名古屋刀剣ワールドは、東京オリンピックが始まる数ヶ月前の6月オープンをめざして、徳川家の妖刀『村正』(むらまさ)』や『闘の孫

と呼ばれるような方から、ゲームやアニメ、ミュージカルで人気となつた刀など、東海地区ばかりの刀など、東海地区ばかりの刀も集めていく。重要な文化財に指定された刀も現地で、甲冑も40~50体展示した。名古屋の観光資源の一つかなれば」

「施設は財團法人が運営する予定。一般博物館並みの入場料を頂戴する。投資はかさむが、一つの新しい事業としている。『刀剣』が社名の『東建』と韻を踏むことで、会社のPRにもつなげる。隣接地に建設する高級賃貸マンション『栄タワー・ビルズ』と一体的にプランディングすることによって、双方の施設の付加価値を高めることもできるだろう」

以上